

今週の T2 経済レポート



2019年2月15日号

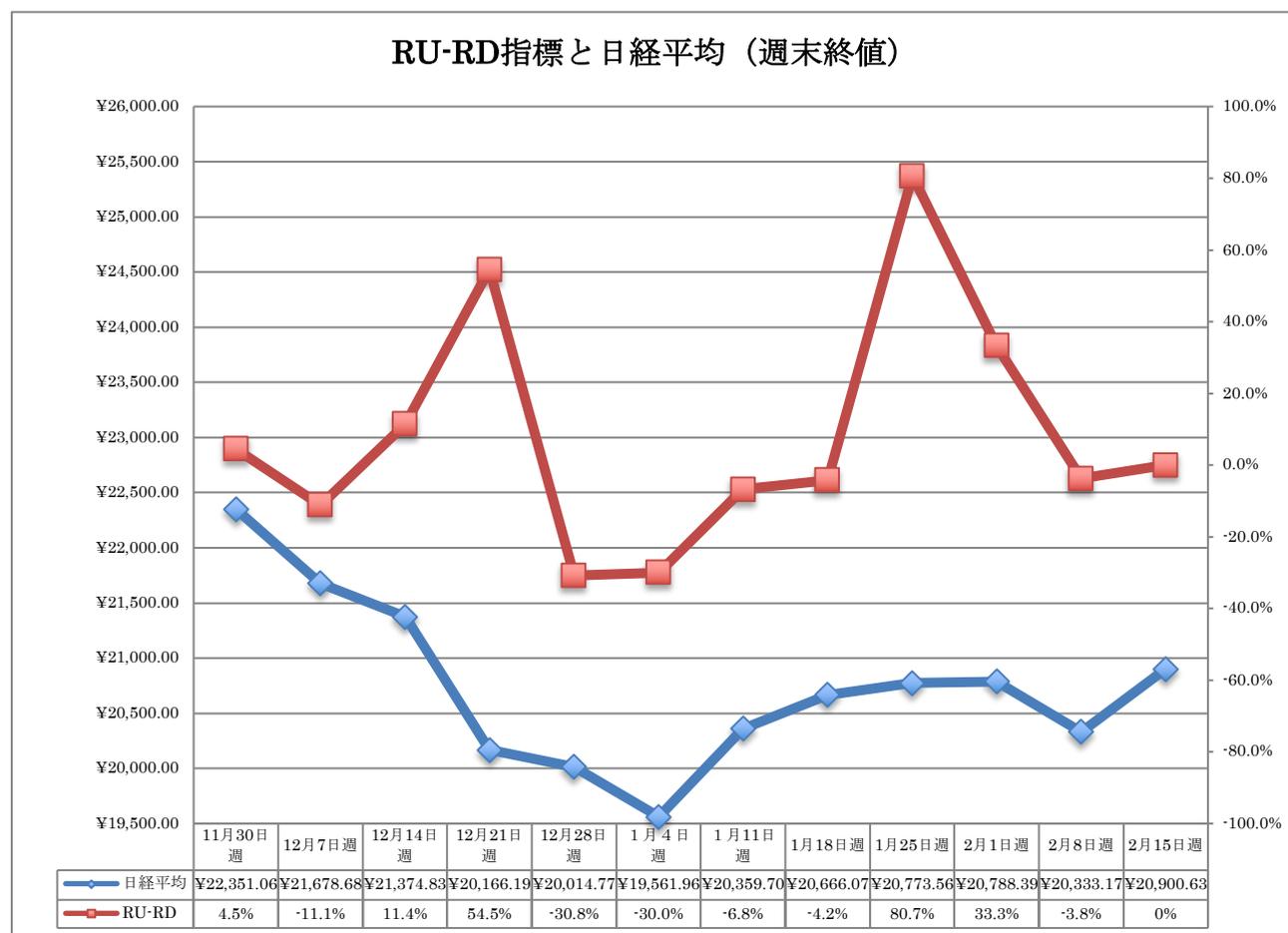
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は急落調整局面は一旦、収束する週となりそうです。今週(2/11~2/15)の相場を占う『RU-RD 指標』の2月1日週が0%とマイナス幅縮小となっていることから急落調整局面は一旦、収束する週となりそうです。ただ、来週(2/18~2/22)の相場を占う2月8日週が-25%とマイナス幅が拡大、実質3週連続マイナス圏に陥っていることから再び、弱含みの動きが予想されます。先週、『大台替えと時間の物理学的法則』でも時間切れのかたちが表れてきたことで、昨年12月26日をボトム急反発してきた第一弾の反発は一旦、終了が近づいていることを示唆。また、今週末8日にはミニSQを控えることから投機筋の外国人が仕掛けてくることも予想されます。』と指摘し、予告通りの展開となりましたが、軟調な相場の動きは来週も継続する可能性が高いことを示唆していることとなります。日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率が、直近1月18日週+18.6%→1月25日週+17.1%→2月1日週+22.9%→2月8日週+8.6%と4週連続でプラス転換していることから、先週からの急落も調整局面の動きとなります。来週以降、同指標が再びマイナス圏に陥り、マイナス幅拡大などの動きに発展した場合は、昨年末の大底に対しての2番底を取りにいく過程となりますので、来週以降の同指標には注目です。先週、『同指標が+40%以上の上限ゾーンまでどのようなかたちで上昇してくるかが重要となります。なぜなら、同指標の動きが日経平均の戻りの動きを示すためです。』と指摘した動きの一環です。ただ、同指標が高値圏を示す+40%以上の上限ゾーンまでは反発過程ですので、それまでは下落局面は買いチャンスとなることは変わりありません。また、今年のように西暦末尾「9」のつく年、つまり干支でいうと「己(つちのと)」の年は戦後、騰落率は平均+26%上昇、かつ一度もマイナスとなっていないことがないことは今年の相場を考える上で重要なポイントかと思えます。大発会の始値19655円は年末上回る可能性が高く、仮に、過去の平均騰落率では24922円が試算されます。

今週は、経済指標では、国内は12日は1月マネースtock、1月工作機械受注、10-12月期GDP速報値、海外では、13日に米1月消費者物価指数、14日に米1月生産者物価、中国1月貿易収

支、15日は米1月小売売上高、中国1月消費者物価・生産者物価が予定されています。13日発表の1月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.5%、コア指数は同比+2.1%と予想されています。コアCPIが市場予想を下回ると米国経済の成長鈍化が意識されドルが弱含む可能性があります。このほかイベント・トピックスとしては、北京で14～15日に開かれる米中の閣僚級貿易協議、15日に迫る米国の暫定予算の期限が注目されます。16日故金正日総書記の誕生日。」とコメントしました。



1月25日週	2月1日週	2月8日週	2月15日週
¥20,773.56	¥20,788.39	¥20,333.17	¥20,900.63
80.70%	33.30%	-3.80%	0.00%

先週の日経平均は、高値 21235 円(2月14日)・安値 20428 円(2月12日)と推移、前の週と異なり、前半安・後半高の強いかたち。先週は、3連休明けの週初、為替が1ドル=110円台半ばまで円安が進んだことから先物主導で上昇、春節(旧正月)による連休明けの上海総合指数が堅調、米与野党が連邦政府の新予算案で基本合意し、政府機関の閉鎖回避への期待が広がったこと、さらにトランプ大統領が米中交渉の期限延長に言及したことで安心感から上値目標値を達成、そ

の後、米国の12月小売売上高が9年ぶりの大幅減少、トランプ米大統領がメキシコ国境の壁建設のため非常事態宣言に踏み切る方針が伝わり21000円を割り込みましたが、週間ベースでは+567円高と5週間振りに下落した前の週のを上回る上昇で終了しています(先週予告していた上値メド20892円~21309円(+2%かい離)//下値メド20404円~19995円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、1月23日までに21000円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、残念ながら実現せず時間切れ。21500円で仕切り直し、逆に、20000円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、12月27日に20000円大台替えで仕切り直しが入り、2月13日に21000円大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに1ヶ月17日間、従って、3月30日までに22000円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、20000円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、12月に20000円大台替えで仕切り直しが入り、2月に21000円大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに2ヶ月間、従って、4月までに22000円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯には入りませんでした。逆に、20000円大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期↑、長期↑となり、乱高下しやすいかたちですが、より強いかたちに変化しました。

日経平均を左右するNYダウは、高値25883ドル(2月15日)・安値25009ドル(2月11日)と推移、前の週と異なり、前半安・後半高の強いかたち。先週は、「3月中にフロリダで米中首脳会談の開催が検討されている」との報道を受け米中貿易協議における合意への期待、トランプ米大統領が米政府機関の再開を望んでいないとの意向を表明したことから再開回避を意識した安心感から買いが先行し上値目標値を達成、週間ベースでは+777ドル高と8週連続で反発、8週間合計で4000ドル超戻して終了しています(先週予告していた上値メド25650ドル~26163ドル(+2%かい離)//下値メド24887ドル~24389ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、時間切れとなっていました。2月13日に25500ドル大台替えで仕切り直しが入りました。26000ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、25000ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、1月24日までに25000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが残念ながら時間切れ。26000ドル大台替えで仕切り直し、逆に、23000ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、12月に23000ドル大台替えで仕切り直しが入り、1月に24000ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入り、さらに1月25000ドル大台替えでカウントダウン継続に0ヶ月、従って、一旦は時間切れとなりました。26000ドル大台替えで仕切り直し、23000ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期→、長期→となり、短期的には強含みながらも方向感がなくなり乱高下しやすいかたちになりました。

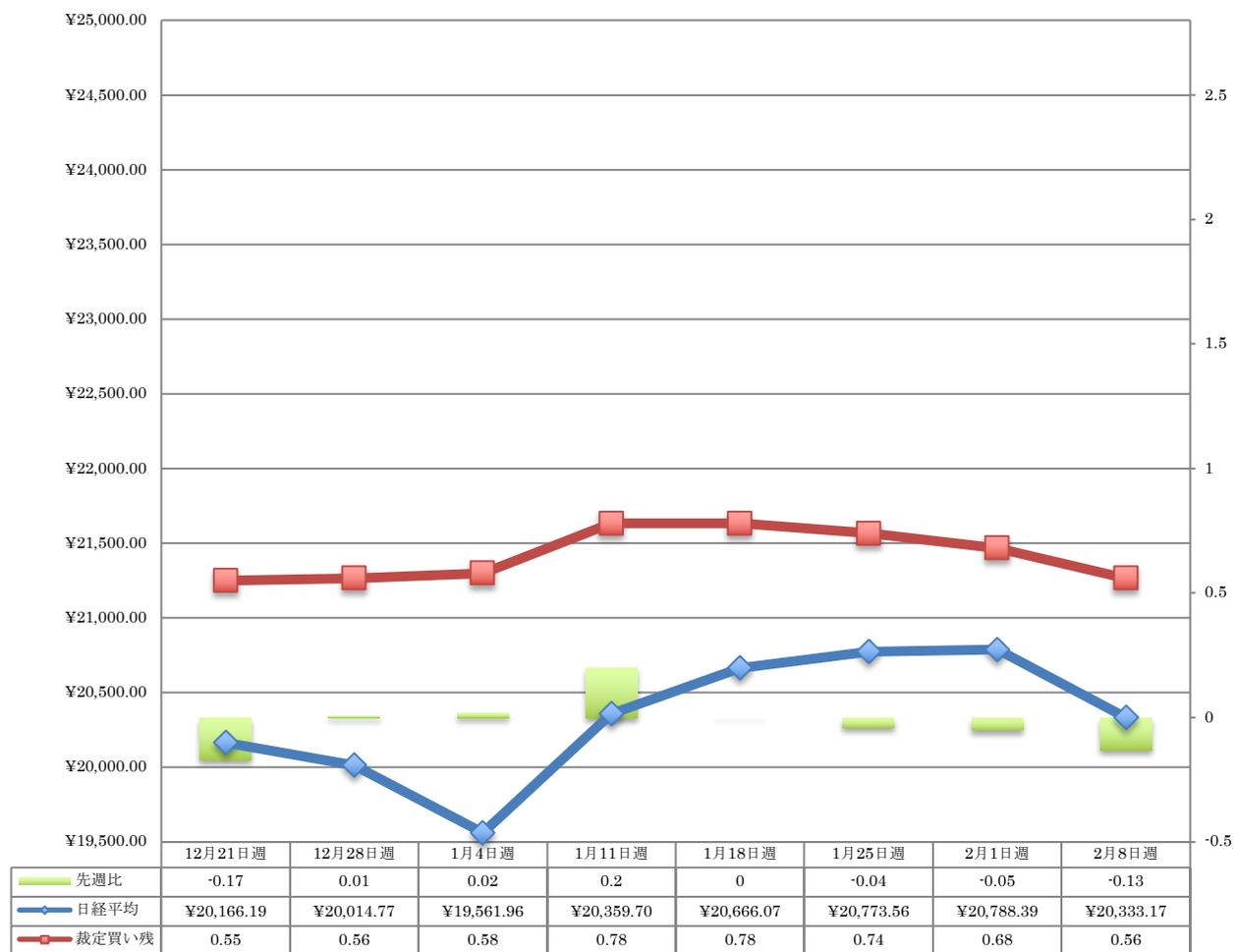
一方、為替は、ドル・円が111.12円~110.23円(先週予告していた上値メド110.10円~111.20円(+1%かい離)//下値メド109.03円~107.93円(-1%かい離))と推移、上値目標値を達成し、実質3週間振りの円安・ドル高、ドル・ユーロは、1.1344~1.1230(先週予告していた上値メド1.1508~

1.1623(+1%かい離)//下値メド 1.1377~1.1263(-1%かい離))と推移し、下値目標値を下回り、3週間振りにドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、125.53 円~124.18 円(先週予告していた上値メド 126.03 円~127.29 円(+1%かい離)//下値メド 124.52 円~123.27 円(-1%かい離))と推移し、下値両目標値を達成し、実質 3 週間振りの円高・ユーロ安。前の週のユーロ>円>ドルからドル>円>ユーロに変化し、3 週間振りにドル高ユーロ安に変化した週となりました。ユーロ圏の 12 月鉱工業生産が予想以上に落ち込んだほか、ドイツの 10-12 月期国内総生産(GDP)速報値が前期比 0.0%にとどまり、ユーロ売りが強まったかたちです。スペインで 2019 年政府予算案が否決され、早期総選挙の実施が決まったことも懸念されています。

<裁定買い残>

「裁定買い残」の水準は 16 年 9 月以来、2 年 3 ヶ月振りの 5000 億円台をつけた後、底打ちの兆しは継続していることに変化はありません。以前から『先行指標からみてすでに行き過ぎた水準までの減少を示しています。これ以上の減少は難しい局面に入っており、現在の水準が底となって近い将来、一度大きく増加することが予想されます。』と指摘しましたが、何をきっかけに急増するのかが今後待たれるところです。昨年 9 月 14 日週~28 日週の 3 週間合計で+1.12 兆円の急増となり、5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 円億円台を回復して 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出しました。その後、昨年 10 月 1 日週~10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円の急減で昨年 2 月 5 日週以来。やはり昨年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

裁定買い残と先週比



1月18日週	1月25日週	2月1日週	2月8日週
¥20,666.07	¥20,773.56	¥20,788.39	¥20,333.17
0.78	0.74	0.68	0.56
0	-0.04	-0.05	-0.13

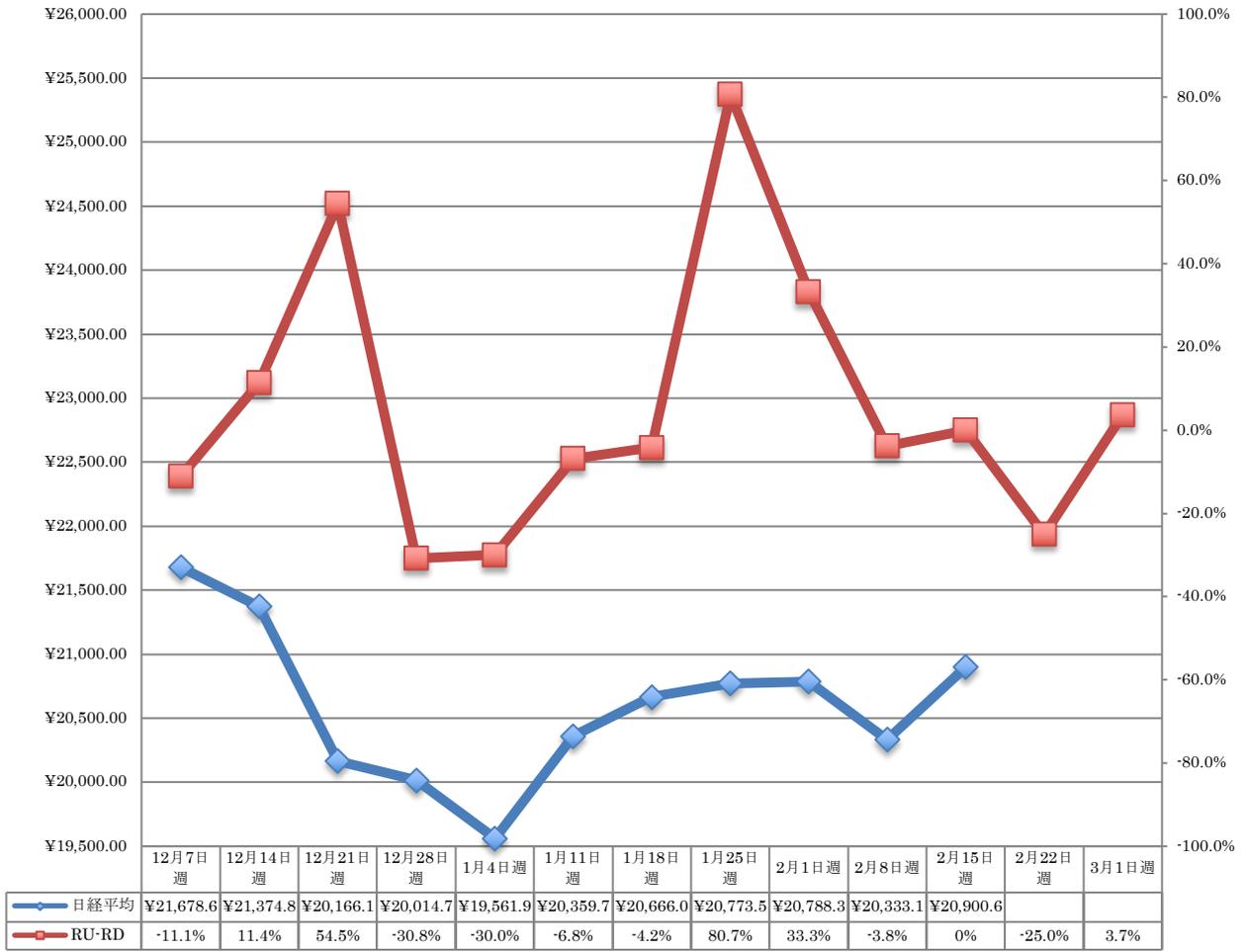
単位:兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は再び、弱含みの動きが予想される週となりそうです。今週(2/18~2/22)の相場を占う『RU-RD 指標』の2月8日週が-25%とマイナス幅が拡大、実質3週連続マイナス圏に陥っていることから再び、弱含みの動きが予想されます。先週、0%とプラス転換ではないのに、マイナスからのプラス転換のような急騰を演じたことで今週は、急落調整も視野に入れておく必要があります。ただ、来週(2/25~3/1)の相場を占う2月15日週が+3.7%とプラス転換していることから急騰の可能性を示唆しています。また、日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率が、直近1月18日週+18.6%→1月25日週+17.1%→2月1日週+22.9%→2月8日週+8.6%→2月15日週+15.7%と5週連続でプラス転換していることから、今週、予告通りの急落となってもそれは調整局面の動きの一環であり、買いチャンスととなります。先々週、『同指標が+40%以上の上限ゾーンまでどのようなかたちで上昇してくるかが重要になります。なぜなら、同指標の動きが日経平均の戻りの動きを示すためです。』と指摘しましたが、「2番底」を付けた後に上限ゾーンまで上昇するのか、それとも一気に上限ゾーンまで上昇するかが今後の注目点。今年のように西暦末尾「9」のつく年、つまり干支でいうと「己(つちのと)」の年は戦後、騰落率は平均+26%上昇、かつ一度もマイナスとなっていないことがないことは今年の相場を考える上で重要なポイントかと思えます。大発会の始値19655円は年末上回る可能性が高く、仮に、過去の平均騰落率では24922円が試算されます。

今週は、経済指標では、国内は18日に12月機械受注、20日に1月貿易収支、1月訪日外客数、22日に1月消費者物価指数、海外では、21日は米2月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数、22日は1月ユーロ圏の消費者物価指数が予定されています。このほかイベント・トピックスとしては、国内では22日に今年最初のIPOとなる識学<7049>のマザーズ上場が予定、惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星「りゅうぐう」に着陸予定、24日は天皇陛下在位30年記念式典、海外では、18日に米ワシントン誕生記念日で休場、20日は1月29日・30日開催のFOMC議事録、24日はEU・アラブ連盟首脳会議(25日まで、エジプト)、が注目されます。20日のFOMC議事要旨を公表では、米連邦準備理事会(FRB)による利上げ一時停止の根拠について何らかの示唆を得られるかが焦点となります。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



2月8日週	2月15日週	2月22日週	3月1日週
¥20,333.17	¥20,900.63		
-3.80%	0.00%	-25.00%	3.70%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 21120 円～21542 円 (+2%かい離)

下値メド 20520 円～20109 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 26019 ドル～26539 ドル (+2%かい離)

下値メド 25286 ドル～24780 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 111.52 円～112.63 円 (+1%かい離)

下値メド 110.52 円～109.41 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.1328～1.1441 (+1%かい離)

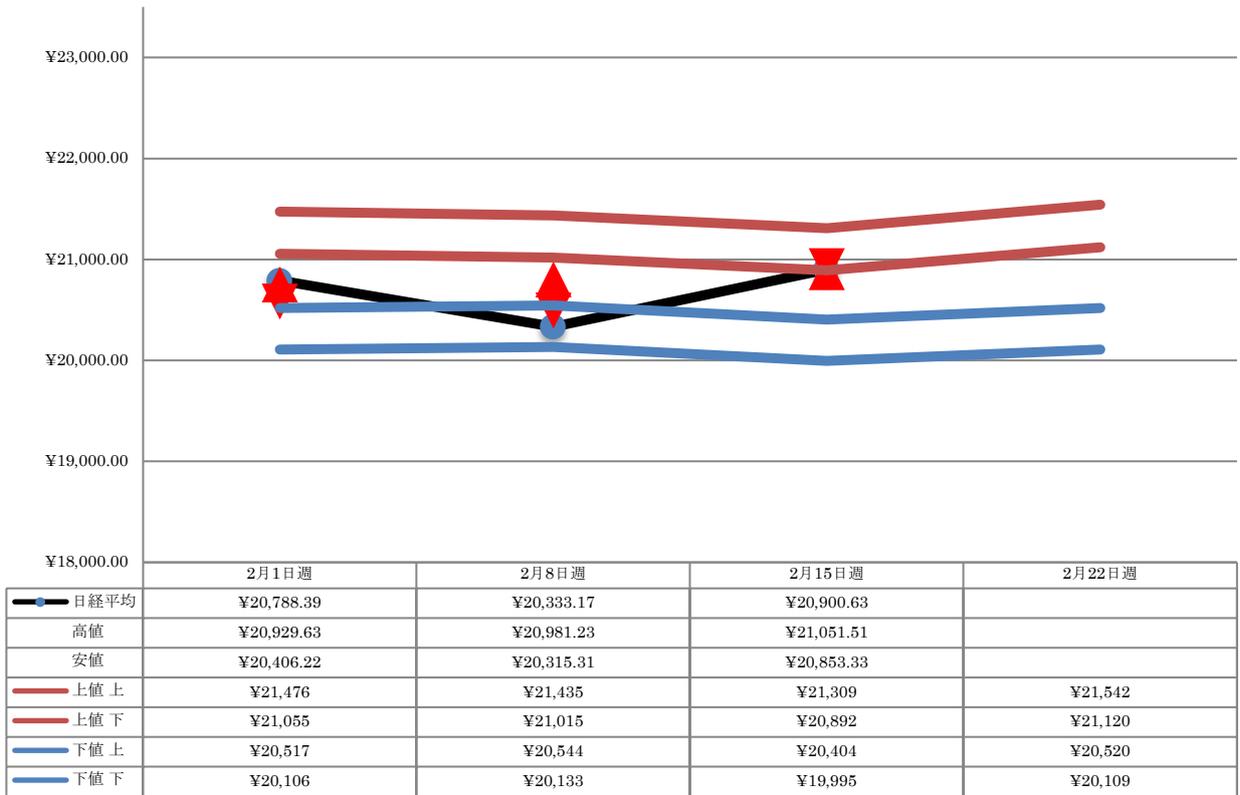
下値メド 1.1190～1.1078 (-1%かい離)

<ユーロ円>

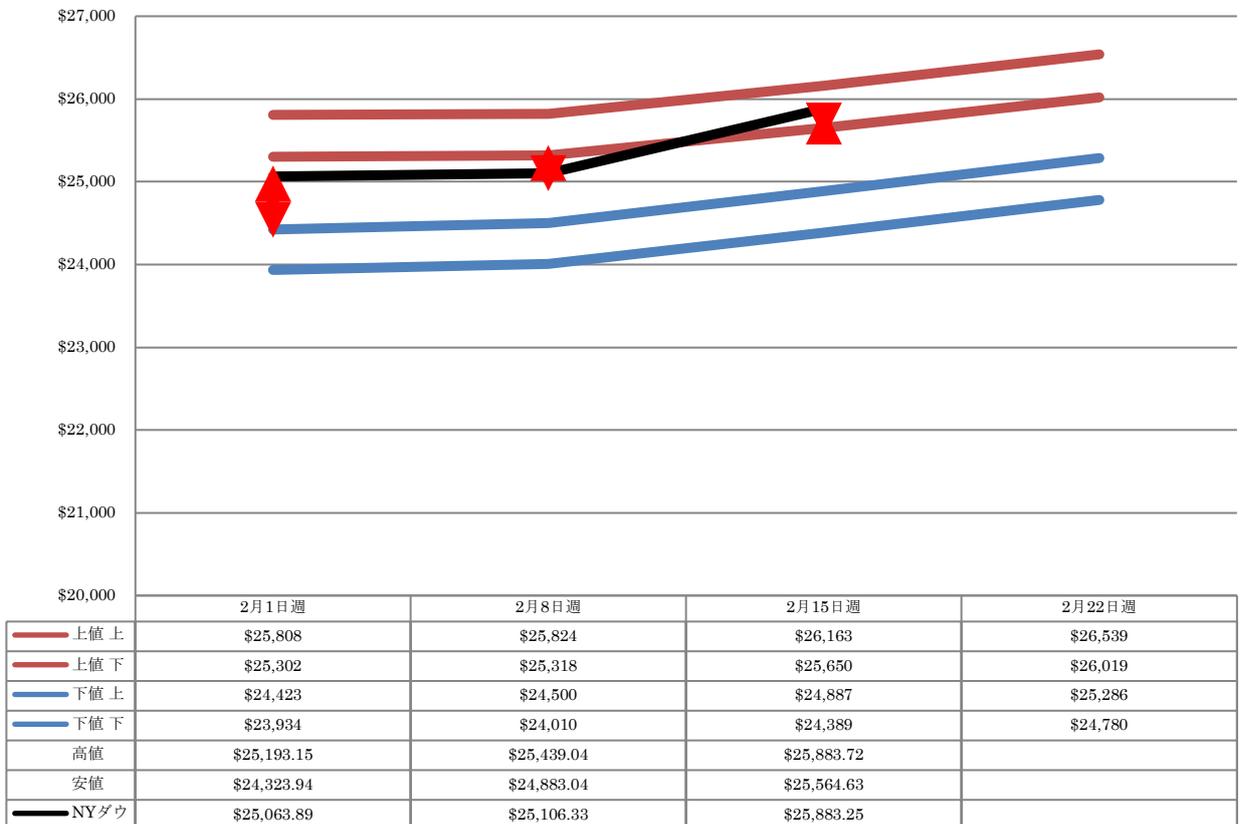
上値メド 125.66 円～126.91 円 (+1%かい離)

下値メド 124.05 円～122.80 円 (-1%かい離)

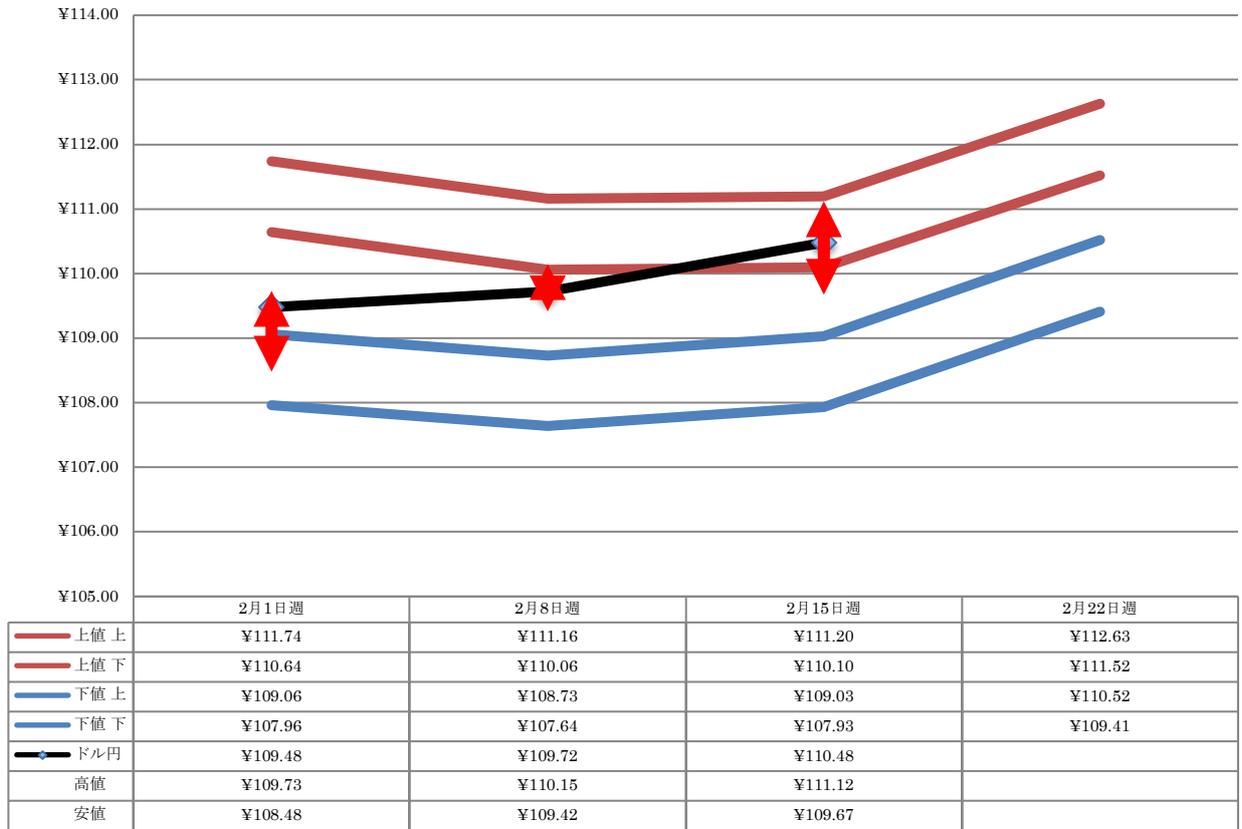
日経平均



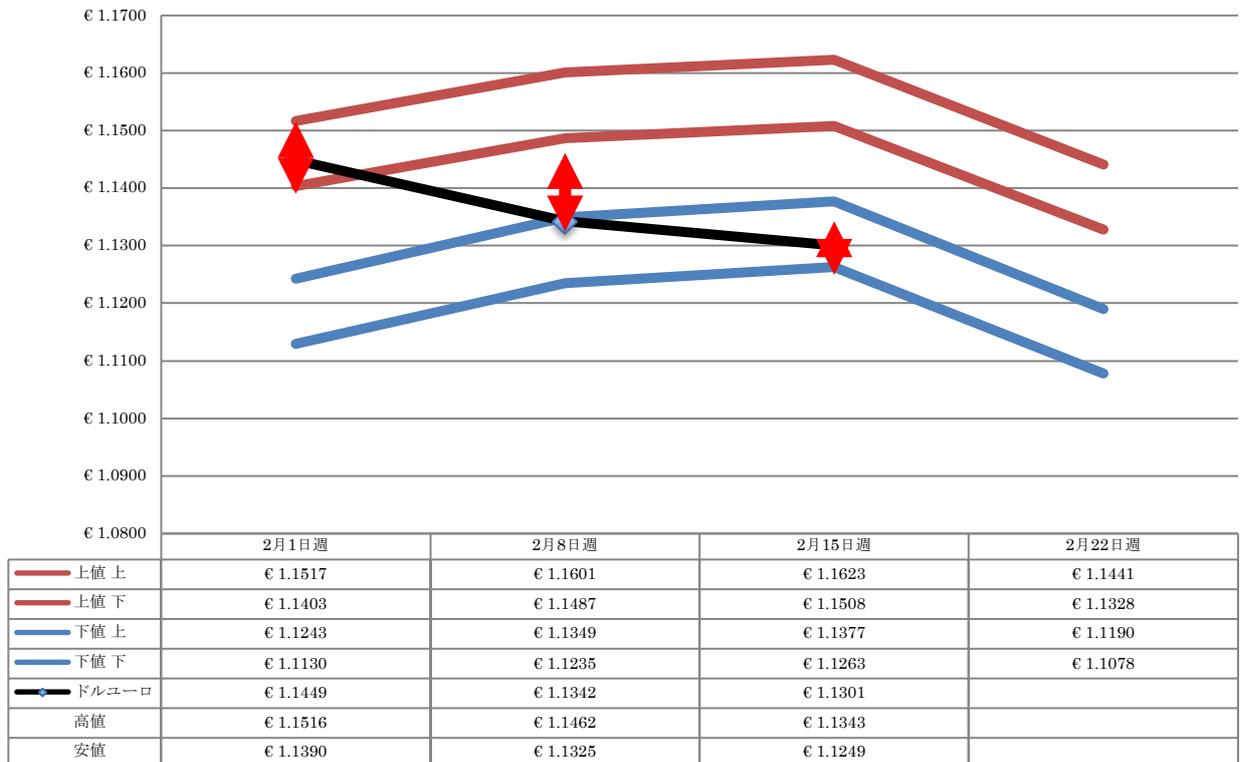
NYダウ



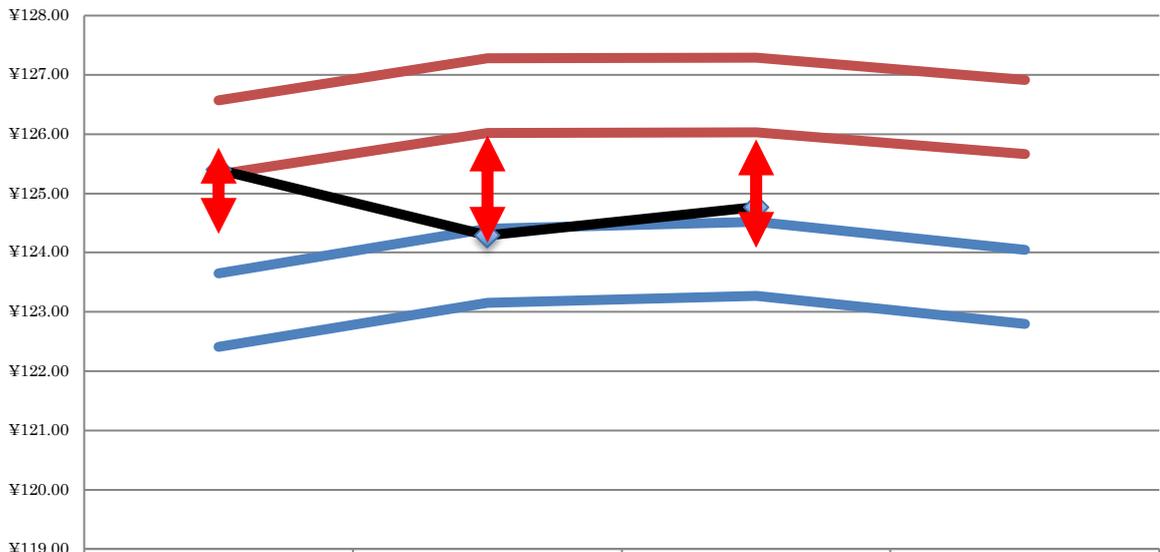
ドル円



ドルユーロ



ユーロ円

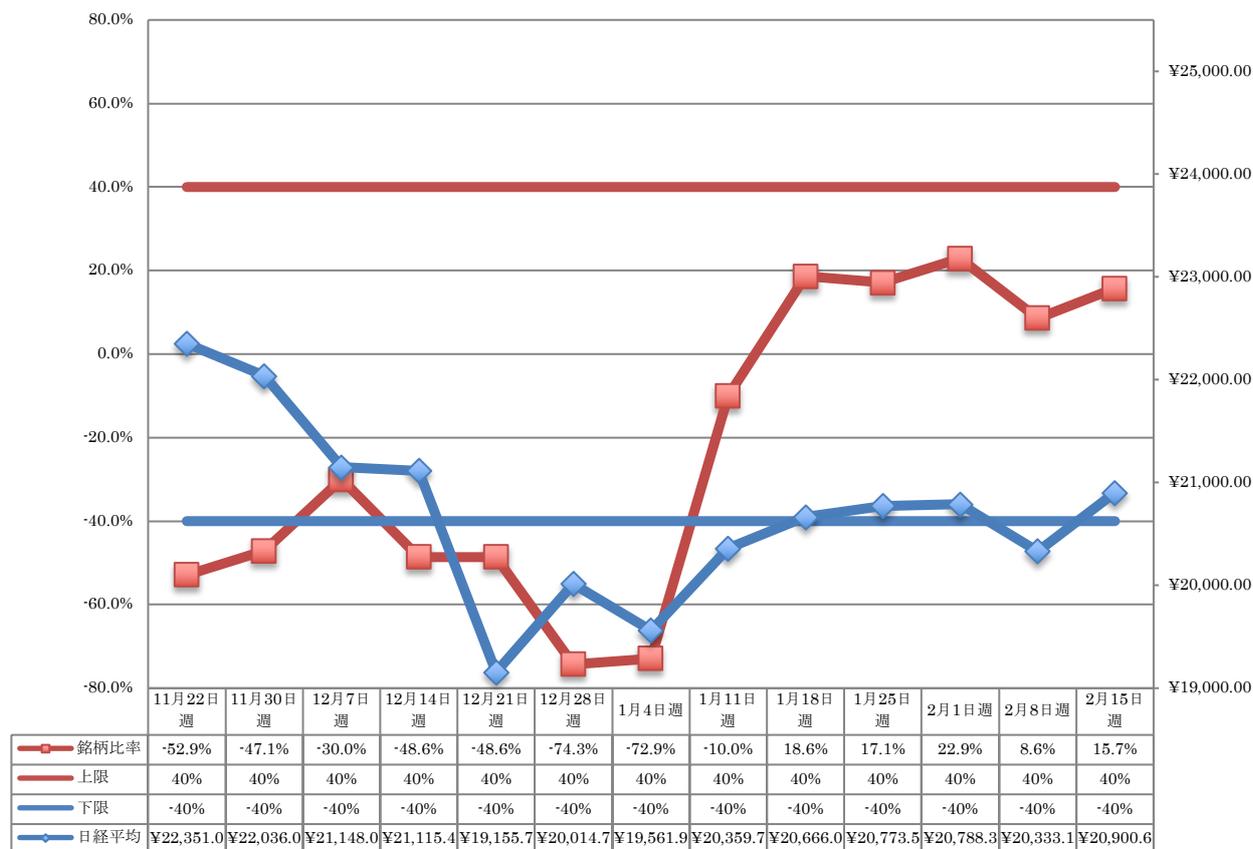


	2月1日週	2月8日週	2月15日週	2月22日週
上値上	¥126.57	¥127.28	¥127.29	¥126.91
上値下	¥125.32	¥126.02	¥126.03	¥125.66
下値上	¥123.65	¥124.40	¥124.52	¥124.05
下値下	¥122.41	¥123.15	¥123.27	¥122.80
ドルユーロ	¥125.40	¥124.29	¥124.77	
高値	¥125.77	¥125.98	¥125.91	
安値	¥124.32	¥124.17	¥124.08	

■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。1月18日週は+18.6%と昨年10月5日週以来、15週間振りにプラス転換、直近2月15日週+15.7%まで5週連続プラス圏をキープしていることで、昨年10月からの暴落局面が一旦、終了して反発局面入りしていることを示しています。日経平均は昨年10月2日に年初来高値を更新しましたが、その前の週である9月28日週+52.9%→10月5日週+42.9%と2週連続で高値圏を示す上限ゾーンを上回りました。その後、10月12日週-17.1%とマイナス圏に陥って以来、14週連続マイナス圏と長期間マイナス圏に陥っていたことが、昨年10月以降の暴落の大きさを示しています。特に、12月28日週と1月4日週の2週連続で-70%超と16年2月以来のチャイナショック以来となる極めて希な水準まで下落していたのは今回の暴落の異常さを示しています。今後の注目点は、同指標がこのまま+40%超の上限ゾーンまで一気に上昇するのか、それともどこかで一服しながら少し時間をかけて最終的に上限ゾーンへと上昇するのかです。何故なら、今後の日経平均の戻り歩調の動きを左右するからです。ただ、いずれにしても同指標が+40%超の上限ゾーンまでは日経平均の戻り基調が継続するということであり、このような局面では押し目買いのスタンスが有効となります。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。